

第3回薬剤耐性リスク管理検討会 議事概要

日 時：令和4年8月9日（火）10：00～12：00

場 所：農林水産省 共用第1会議室＋ウェブ

出席者：メンバー（敬称略）：鬼武一夫、河合一洋、呉克昌、鈴木里和、田村豊、橋本信一郎

オブザーバー（敬称略）：峯松浩史

事務局（畜水産安全管理課及び動物医薬品検査所）

主な議題と議事概要

1 次期薬剤耐性対策アクションプラン検討の経緯と最近の取組について

【事務局からの説明】

- 次期アクションプランの策定が2年間延長されているが、前回の薬剤耐性リスク管理検討会での御助言を踏まえ、①農場ごとの抗菌剤使用実態把握システム導入の検討、②動物由来薬剤耐性菌の全ゲノム解析、③生産現場の周辺環境における抗菌剤の残存及び薬剤耐性菌に関する調査、について、既に実施中。
- 養殖水産動物の薬剤耐性菌動向調査、愛玩動物分野における薬剤耐性対策の普及啓発等に着手するとともに、みどりの食料システム戦略に基づき、抗菌剤に頼らない畜産生産及び養殖生産体制の推進に取り組んでいる。

【主な意見】

- 抗菌剤の使用実態把握では、全体像が分かるようにすること。抗菌剤使用実態把握システム導入にあたっては使用者のインセンティブを考慮することは重要。
- 電子指示書システムについては実証試験に参加し、獣医師にとっては非常に便利と実感している。生産者にとっては、抗菌剤使用状況が見える化し、生産体制の透明性を増すことがインセンティブとなることを期待している。
- 電子指示書システムを鶏でも実証していただきたい。鶏で大腸菌の薬剤耐性率が高くなっているので使用実態を把握することは重要。
- 日本においても環境中での薬剤耐性菌の挙動や影響等を調査する必要。堆肥処理や使用の方法が薬剤耐性対策につながるよう、関係機関で十分に連携して取り組んでいただきたい。
- 愛玩動物では人体薬が使われることが多くあるので、獣医師による適正処方、飼い主の適正使用等の普及啓発が重要。

2 次期薬剤耐性アクションプランの代表的な取組や指標の案について

（次期アクションプランにおける農林水産省の取組について）

【主な意見】

- 畜産分野では、生産現場における抗菌剤使用実態把握システムの構築、ワクチンや抗菌剤の代替薬等の開発・実用化、全ゲノム解析を用いた薬剤耐性動向の把握を推進する。

- 養殖水産分野では、抗菌剤の使用機会を低減するため、ワクチン接種プログラムやワクチン普及に必要な機器等の開発・普及を行う。
- 愛玩動物分野では、薬剤耐性に関するデータ収集と分析により、飼い主等への指導・啓発を推進する。

(成果指標の考え方について)

【事務局からの説明】

- 現行アクションプランの成果指標のうち、健康家畜由来大腸菌のテトラサイクリン（TC）に対する耐性率は2020年の目標値を達成できない見込み。豚での抗菌剤販売量は減少傾向にあるが、鶏では大腸菌の薬剤耐性率が高くなってきている。目標値の設定方法に問題が無かったか検討が必要。
- 大腸菌の第3世代セファロスポリンとフルオロキノロンに対する耐性率は畜種別に見ると鶏が高く、目標値の継続性という点で、3畜種の平均値を目標値に設定するか検討が必要。

【主な意見】

- 畜種により飼養環境は異なり、抗菌剤の使い方や耐性率が大きく異なる。指標は全家畜の平均値とせず、生産実態を踏まえた対策を可能とするためには、畜種ごとに指標を置くべき。
- 肉用鶏のTC耐性率の増加について、コマーシャル鶏の生産段階では大腸菌症の治療にTCは使われないが、薬剤耐性菌が種鶏世代から伝播している可能性があるため、親世代も含めた施策が必要。
- G7各国でも大腸菌の薬剤耐性率にばらつきがあるので、日本の実状に合った水準とする方が現実的と思われる。
- 日本はもともと細菌の薬剤耐性率が平均値で見ると低く、これ以上下げるのは現実的では無い。
- 現在目標値として設定しているものと作用機序が異なる薬剤でもう1種類設定すると良いため、第3世代セファロスポリンやフルオロキノロンだけでなく、例えば、15員環マクロライド系、コリスチンについても検討すること。
- 人医療分野では、イギリスでMRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の感染を半減させた成功事例を参考に目標を設定されている。動物分野でも他国での成功事例があれば、それを参考にするとよい。
- 抗菌剤の使用量について削減目標を設定すべき。使用量を削減することにより、長期的に見れば耐性率を低減させることが出来ると考える。
- 豚では抗菌剤の飼料添加剤としての利用が最も多い。抗菌剤の総使用量を下げるという目標設定については、設定方法が難しいと思うが、検討することに反対ではない。

3 その他

成果指標の考え方については事務局で整理し、薬剤耐性リスク管理検討会に報告する。